

# れきし 散歩

## 市制10周年記念企画展「亀山地方の街道絵図」から 江戸時代の街道絵図の作成過程がわかる 「亀山領内東海道分間絵図」

### はじめに

市制10周年記念企画展「亀山地方の街道絵図」を歴史博物館で展示(6月7日まで)しています。その中の「かめやまのりょうないとうかいどうぶんけんえず亀山領内東海道分間絵図」(市指定文化財伊藤家所蔵)を紹介します。

### 徳川幕府による五街道分間延絵図作成事業

徳川幕府は、寛政12(1800)年7月から、東海道、中山道、甲州道中、日光道中、奥州道中の五街道や大和街道、伊勢街道など、脇街道の分間絵図作成事業を開始しました。この事業にあたっては、道中奉行支配の勘定や普請の役人が現地へ赴き、それぞれの街道を実地測量して絵図を作り、最終的にその絵図を元に、文化3(1806)年に完成させています。

仕上がった絵図は、鳥瞰図として描かれており、沿道の建物などが立体的に描かれています。現存するこの絵図は、「ごかいどうそのほかぶんけんのべえずならびにみとりえず五街道其外分間延絵図 並見取絵図(著色)」(東京国立博物館所蔵)という指定名称で重要文化財になっています。

### 亀山領内東海道分間絵図

幕府によるこの事業について、東海道の実地測量の具体的な史料は、ほとんど伝存が確認されていません。しかし、亀山領内の東海道については、とても詳細に、実地測量の方法を知ることができ、このときに作成された絵図も、欠失している範囲はあるものの、ほぼ現存しています。

それが、実地測量の方法や絵図の表現方法のマニ



亀山宿西町部分

ュアルともいえる「ぶんけんえず分間絵図仕立一件仕方帳」と「亀山領内東海道分間絵図」です。

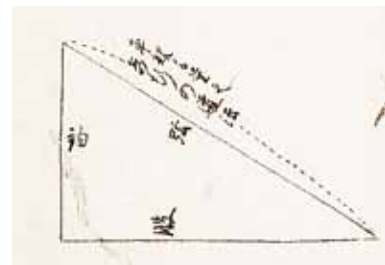
### 実地測量に関係した人物

実地測量は、享和3(1803)年閏正月15日に、五街道分間絵図仕立御用勘定の上野権内と普請5人が石薬師宿からやってきて、亀山宿に23日まで逗留して行われました。亀山藩からは、分間方役付として石川家家臣堀池六太夫や、亀山宿東町の町役人も関わっていたようです。

この測量で彼らは、水縄を使わず、歩きながら車を転がして距離を測ったとみられる「車規」という道具を使って、街道の長さを測っています。

### 絵図の表し方

実地測量した結果を、絵図としてどのように表現するか、これについても「分間絵図仕立一件仕方帳」には詳細に記されています。



「分間絵図仕立一件仕方帳」にみる釣股弦の図

まず、1間(約180cm)を1分(約3mm)とし、10間(1,800cm)を1寸(3cm)の割合にしていますので、600分の1の縮尺(分間)で絵図を作っています。

そして、坂道のところは、釣股弦と呼ばれた直角三角形の三辺の割合、3、4、5の関係を利用しています。つまり、車規で測った道のりを「弦」として、「股」の長さを絵図に表しています。したがって、坂道の表現は、車規で測った間数より、絵図間数が短いところは、坂道であるという理解を促しています。

「分間絵図仕立一件仕方帳」には、そのほかにも樹木や田畑、垣などの表現方法が



樹木の表現

記されています。この凡例を元に表されているのが「亀山領内東海道分間絵図」となります。

### 最後に

「亀山領内東海道分間絵図」は全部で6巻に分かれています。5月10日までは、6巻を一堂に会した展示です。その後、列品を入れ替え、5月13日から6月7日までは、そのほかの街道絵図とともに、「亀山領内東海道分間絵図」の一部を展示します。

いずれの展示も、ぜひお楽しみください。